

No.2471

花の縦走路に行く 南八ヶ岳主稜縦走

実施日 2010年7月25日(日)~27日(火)

天候 快晴

リーダー 馬場 清士

参加者 斎恵美子、渡辺清、馬場清士、
福島政幸、涌井良明、島本陳重、
鈴木政三、石附智江、渋谷賢寿、
渋谷京子、柴田正喜、中村友子、
伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代

計 15 名

費用 33,600 円 (交通費 15,000 円
宿泊費 18,600 円)

タイム 7/25 茅野駅(13:20 迎車)夏沢
鉱泉(14:10) 泊

7/26 夏沢鉱泉(6:35)オーレン小屋
(7:25~7:35)夏沢峠(8:1
0)硫黄岳(9:15~9:30)横
岳(11:40)石尊峰(12:25
~13:00 昼食)赤岳天望荘
(14:00)

7/27 赤岳天望荘(6:30)赤岳
(7:15~7:50)中岳(8:50)
中岳のコル(9:10)阿弥陀岳
(9:40)中岳のコル
(10:10~10:20)行者小屋
(11:00~11:20)美濃戸山
荘(13:20)美濃戸口
(14:10~16:34)茅野駅
(17:26)

25日 茅野駅の改札口に15名の参加者が勢揃いした。夏沢鉱泉の迎えの車に分乗し鉱泉を目指す。

三井の森別荘地を過ぎ、鳴岩川沿いに行く。桜平を過ぎるあたりから高度を上げて行くと、ほどなく夏沢鉱泉に着く。早速、鉱泉に浸かり缶ビールで乾杯となった。



26日 快晴、6時30分に出発、夏沢沿いになだらかな登山道に行く。

沢を二度ほど渡り、山腹をつづら折に登る。樹林の間から硫黄岳を見上げるようになると、オーレン小屋が近い、一登りで夏沢峠に着く。目の前には硫黄岳、振り向けば根石岳、東天狗岳、西天狗岳が望める。



ハイマツとガレ場の急登を1時間ほどで硫黄岳の山頂に着く。広々とした山頂で展望が素晴らしいが、北縁は爆裂火口が断崖になっている。これから行く横岳、赤岳、中岳、阿弥陀岳、其の奥に権現岳、編笠山が覗いている、南アルプスも遠望できる。



硫黄岳山荘から南へ横岳を目指す。台座ノ頭付近の西斜面一帯はコマクサの群落地で、薄いピンク色が可愛い。

コマクサの群落地を過ぎると横岳の岩稜がはじまる。最初に横岳本峰の奥ノ院だ。クサリの連なるナイフリッジをトラバース、最後に高度感のある岩稜に登ると奥ノ院に立つ、素晴らしい眺めだ。無名峰を越え、三叉峰を巻き、石





尊峰を越え、鉾岳をトラバースし、日ノ岳を過ぎると横岳は終わる。横岳周辺の草地一帯は、高山植物の宝

庫でもある。

稜線を辿り地蔵尾根の頭から登り返すと赤岳天望荘に着く。天望荘は、大きな五右衛門風呂と食事はバイキングで知られている。

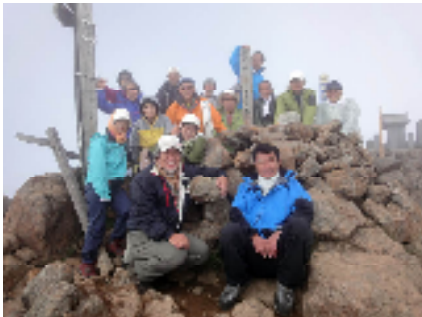


27日 夜中から早朝にかけて強風とガスで何も見えない、さてどうしたものかと思案しながら朝食を済ませていると、にわかに晴れ間が見えてきた、今日も快晴となった。



6時30分に出発、岩礫の斜面をジグザグに高度を稼ぎ、赤岳の肩に出る。ここから稜線を一登りで赤岳山

頂だ。雲海の上に富士山が遠望できる、雲が多いが北アルプスも望める。360度の展望が素晴らしい。



山頂から高度感のある傾斜の強い岩場を下る。文三郎尾根の分岐を過ぎ、阿弥陀岳を目前にし



ながら、中岳を越えて中岳のコルに下る。阿弥陀岳に登る人とそれを見る人に分かれる。

阿弥陀岳は往復で1時間位だ。見ている人はのんびりと休憩を決め込んでいる。



中岳のコルから北へ中岳道を下る、樹林の斜面を急降下し、涸れ沢沿いを緩やかに下ると行者小屋だ。多くの登山者が休憩している。見上げれば大同心、小同心、赤岳、阿弥陀岳が見える。



行者小屋から北沢を下り、美濃戸山荘を過ぎ、美濃戸口に下りた。

バスの時間まで、入浴、食事

と思い思いに過ごし、バスに揺られて茅野駅で解散とした。

2泊3日快晴に恵まれ楽しい山行でした。参加された皆さんお疲れ様でした。またご一緒しましょう。

(記・馬場 清士)

(写真提供・涌井 良明)

